

西北部 I ブロック
地域の未来についての懇談会
(通算第 129 回)

開催日	平成 30 年 4 月 19 日 (木)
開催時間	午後 6 時 30 分～午後 8 時 30 分
会場	とみの里地域ふれあい会館
参加者	40 名



意見・質問等	市側の発言
1. リニア新幹線について	1. リニア中央新幹線は、2027年に名古屋までが開業する。大阪には2037年に開業予定であるが、どこを通るかは確定していない。駅の場所はJR東海が決める。当初計画段階から平城山駅付近が一番の候補と、県も過去にはずっと言ってきた。地元負担が要らなくなったとたん、あちこちで手が挙がってきたが、奈良市内に持ってきてほしいと思う。リニアの奈良駅から関空まで20分余りで行けるよう、五條市や橋本市を通過して新幹線を引く構想を県が持っている。
2. 登美ヶ丘小学校の体育館の中にはトイレがなく、避難所として使う場合も、靴をはき替え、雨のときは傘を差さないと行けないことについて	2. 学校のトイレは、便器の数で言うと全部で2,500から2,600あり、取りあえず避難所になっている体育館のトイレを優先して洋式化している。今外に出ているというケースは、別途この校舎を考えると、優先して考えていきたい。
3. 20歳未満の方の人口に関して、今住んでいる方に対する対策だけでなく、ほかの県から引っ越してくることについて	3. 人口の増減原因には、出生と死亡、転入と転出の2種類ある。大阪からは転入者の方が多い。奈良から通勤できるのに大阪でマンションを買われる方が結構おられるので、その世代を取り込むため、住宅都市の魅力を焦点としたプロモーションビデオを制作している。生駒市等も人口増に力を入れており、自治体間で結構熾烈な競争時代に入っているので、戦略的に努力していきたい。
4. 平城西小学校の児童はどんどん減り、東登美ヶ丘小学校はプレハブが要るようになっているので、校区変更できないかについて	4. 住宅が建つので、もともとの校区から線引きが随分変わっているが、また人口が減少したり増加したりする。やむを得ない事態が起こってくると、教育委員会の附属機関である通学区域検討委員会にかけて検討していく。安全な通学が一番問題になってくる。

5. 自分たちが高齢者になったとき、老人施設の待機になるのではないか、また地域活力の担い手がいなくなると心配している。高齢者に対する市の方針について

6. ゾーン30に替わる別の方法について

7. 防災について、支援が必要な方が避難されたとき、どう支援したらいいのかを研修する場を設けてほしいことについて

8. 成年後見システムは、高齢者にとって切実な問題になっていくことから、できるだけ費用のかからない方法を検討してほしいことについて

9. 地域自治協議会については、市が設立準備金も用意され、加速する段階に来ているが、活動拠点が重要になってくるので、早急に整備してほしいことについて

10. コミュニティ・スクールをつくるのは、小学校単位でも、中学校単位でも、どちらを選んでもいいようにしてほしい。また小学校でつくるのであれば、幼稚園も入れるように検討してほしいことについて

5. 今、奈良市の人口36万人弱のうち、30%弱が65歳以上の方で、うち20%弱が介護認定になっている。施設入所については、国は基本的に地域で地域包括ケアシステムを考えることを推奨している。地域の活力については、市では地域自治協議会を今提案している。

6. ゾーン30は県・国の事業で、予算の範囲内ということで平成29年度も1地区しか進んでおらず、遅々として進まない一方、要望は多いことから、市独自で類似の制度を考えている。内容は今後計画するが、できるだけ柔軟に、迅速に対応できるように検討していきたい。

7. どういう方法で実際に支援していくか、ていねいなマニュアルや研修、実践に即した支援に力を入れて、きめ細かなサポートを充実させていきたい。

8. 成年後見を専門職に頼むと、かなり費用がかかる現状もあるので、その方がどのような権利擁護を望んでおられるか、本当に専門職が必要か、介護サービスにつなぐ等の支援で可能か等について、安全性を考えた体制を検討していきたい。

9. 地域自治協議会については、奈良市自治連合会の中で今27地区によって検討委員会が作られ、勉強されている。その27地区で、活動に必要な拠点をどこにするか、調査した。すぐ使えるところもあれば、うまくできないところもある。費用の関係があるのですぐにできるかどうかはわからないが、準備会を立ち上げる地区から活動拠点を設けていきたい。

10. コミュニティ・スクールは、国の方向性も柔軟にということもあり、地域での課題等を踏まえ、中学校区でつくっても、小学校区でつくってもよい。幼稚園については、学校に接続していくという意味では非常に大事なので、私たちも幼稚園にも声をかけ、応援していきたい。